

## 日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本臨床栄養代謝学会  
理事長 比企 直樹

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

本学会の特筆点は会員数（2021年3月31日現在 22,276名）となる。栄養サポートチーム（Nutrition Support Team：NST）が着目された2005年から急激な増加をみたが、その後も安定した会員数を保持し、世界最大の栄養関連学会として歩み続けている。本会の学術分野は、医療の根幹を成す分野であり、多職種の医療従事者が一同に介する土壌は、過去・未来を問わずパブリックコメントや内外の情報発信に強い説得力を持ち、学術的に重要な貢献につながっている。

1) 相互接続防止コネクタ国際規格経腸栄養分野の小口径コネクタ（ISO(IEC)80369-3）シリーズ製品の国内導入について

厚生労働省や独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）と連携し、新規コネクタの評価を行った。切り替えに向けて現場の混乱を回避すべく、全国の支部学術集会や教育セミナー会場で啓発・周知の導入に協力した。

2) 本学会の強みを生かした世界に通じるエビデンスの確立にむけて

本邦において外科治療時の栄養療法とサルコペニアやフレイルの関係における主だったエビデンスがなく、多くの臨床現場から本学会へ熱い要望がある。現在、学会員の若い世代（JSPEN-U45：45歳以下で構成）が中心となり本学会の強みを生かした学術的に重要な Big data 集積を基に未来に向けた世界に通じるエビデンスの創設に向けて邁進している。

b. この5年間の国際的な役割

世界の臨床栄養代謝学および静脈経腸経口栄養学に関連する本邦の窓口として、欧州臨床栄養代謝学会（ESPEN）、②米国静脈経腸栄養学会（ASPEN）、③アジア静脈経腸栄養学会（PENSA）、④ラテンアメリカ静脈経腸栄養学会（FELANPE）と学術交流がある。海外招聘講演や各国際学会から招聘を受け、演者等を派遣している。国際的・学術的な研究の連携では、低栄養の世界統一基準 GLIM Criteria を求める世界初の試みに発足時より関与し、2018年、ESPEN および ASPEN の学会誌へ世界規模での GLIM Criteria が同時掲載され、本学会も共著に名を刻み、国際的にも主要メンバーとして認知されている。

### c. 活動からもたらされる社会的な意義

#### 1) 栄養サポートチーム（Nutrition Support Team：NST）の設立

NSTを通じた適正な医療を社会へ提供したことがあげられる。NSTは医療現場の負担を減らす社会的な意義と導入の有用性が証明されてきた。診療報酬では、世界初となる行政改革として、2006年に栄養管理実施加算が実現、2010年にNST回診に基づくNST加算として算定された。一人の患者さんをサポートするチーム医療の体制は、わが国の誇るべき医療体制の一つとして進歩の証となった。

#### 2) JSPEN共通データベース構築とエビデンスの創出を目指した「研究」について

NST以外にもガイドラインの作成、臨床現場に役立つコンセンサス本の作成などの活動から社会的な意義と発信に力を入れている。その中でも特筆すべきは、前述のJSPEN-U45活動の一つとなる共通データベース構築プロジェクトがある。これは本学術領域のアカデミアとして日本と世界を比較する国際的なエビデンスの創出であり、将来もたらされる社会的な意義は大きく重要な活動になっている。

### d. 学会運営上留意している点

学会の規模が大きいため事業活動の形骸化に注意している。事業運営あたっては、常に運営・制度上の整合性を確認し、事務局レベルでも指摘ができるような組織作りを目指し、日々従事している。組織体制では、多職種の土壌を活かしたアカデミアとして、大切にすべき伝統と若い世代の交流も重要な運営上の留意点としている。理事長を筆頭にトライ&エラーも含め、チャレンジ精神で前進することを心に留め日々活動している。

## II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

臨床栄養代謝学および静脈経腸経口栄養学の進歩のため、関連学協会とも連携し活動を進めている。代表的な組織として一般財団法人日本栄養療法推進協議会：JCNT（3学術研究団体、5職能団体）がある。2004年にNST稼働施設認定の第三者認定機関として設立され、学術団体と職能団体が一体となりNST活動の体制や内容を第三者的立場から評価・指導するとともにその質の保証に貢献することを目的に活動されている。

その他、日本栄養学学術連合（15学術団体）がある。2017年1月に設立され、栄養学の学術としての質を高め、その成果をもって、少子超高齢化が進展する日本社会において、人々の健康寿命の延伸および生活の質の向上に寄与することを活動目的とし、本学会もその設立趣旨に賛同し、15の学術団体の一つとして加盟した。日本医学会分科会では、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会が同じく加盟されている。2021年は「東京栄養サミット2021」が日本で開催され、同連合に対して、厚生労働省からアカデミアとしてのコミットメント協力を求められており、足並みを揃えた活動が展開されている。

以上